

正書法と分離動詞

中 村 直 子

1. 正書法改革

1994年11月、第3回Wien会談において、1992年に出版された『正書法改訂の提案』に基づいて現行の正書法が改定されることとなった¹⁾。今回の改定で扱われる分野は6種類あるが²⁾、この中で、ここで特に取り上げるのは「一語書き・分かち書き」の分野である。というのは、この分野における今回の改定は、分離動詞というカテゴリーの認定に少なからぬ影響を与えるからである。すなわち、今までは分離動詞の一タイプと見なされていたような動詞が、新正書法での規則に則てみると、分離動詞とは見なされなくなってしまうのである。次節では、このような視点から、「一語書き・分かち書き」分野における新正書法での改革点を見てみる。

1.1. 「一語書き・分かち書き」分野における改革点³⁾

現行のDuden正書法辞典の規則⁴⁾によると、動詞に関する一語書き・分かち書きの区別は、次のような意味的基準に依っている。

R205

動詞が第二構成要素である一つらなりの語は、それが単なる並置ではない**新たな概念**を生じている場合、決まって一語書きする。

R206

二つの語がまだ、**それぞれの意味**を持っている場合、分かち書きする。

R207

名詞の意味が薄れ、行為の意味が支配的である場合、名詞と動詞は一語書きする。⁵⁾

しかしながら、このような意味的基準に基づく規則は、R205 に当てはまらないにもかかわらず一語書きされる kennenlernen のような例や、第一構成要素⁶⁾ となる形容詞が比較級になると分かち書きされる leichtfallen – leichter fallen のような例のように、多くの例外と、それに対応する細かい規定を伴うため、非常に分かりづらいものとなっている⁷⁾。このような現行の規則は「矛盾するところがあり、全体としては非常に見通しの悪い⁸⁾」ものであるゆえに、新正書法の規則で目指されているのは、見通しの良さである。

まず、一語書き・分かち書き分野の大前提となるのは、「分かち書きが標準」ということである。すなわち、一語書きが特殊な状態と見なされ、「どのような場合に一語書きされるか」ということが規則化されることとなる。これは、一語書き・分かち書きが問題となる動詞、例えば分離動詞は、以下の例のように、第一構成要素と第二構成要素が逆転した順序で現れる場合には、「一般的に分かち書きされる⁹⁾」からである。

Er bleibt in der Schule sitzen. 「彼は落第する」

Es fällt ihm leicht, dies zuzugeben.

「彼にとって、このことを認めるのはたやすいことだ」

つまり、このような動詞は、普通のテキスト上で現れる場合は分かち書き、すなわち分離した状態が普通であると見なされている。

また、一語書き・分かち書きの基準を定めなければならないところには、文法的基準が採用されている。すなわち、形容詞＋動詞の結合においては、以下の例のように、形容詞が比較変化できるか、または程度を表す語が付加できる場合、分かち書きされることになる。

leicht fallen : Nichts wird mir leichter fallen als dies.

「このことほど、私にとって易しいものはないだろう」

lästig fallen : Er fängt an, mir sehr lästig zu fallen.

「彼は、私にとって非常に重荷になり始める」

ただし、bereithalten : *sehr bereit halten

さらに、品詞によって規則の記述は並べられており、それぞれの規則においても品詞による分類がなされ、当てはまる例を探しやすいように考慮されている。

1.2.分離動詞認定と新正書法の規則

ここでは、新正書法の規則が、どのように分離動詞というカテゴリーの認定に影響を与えているかを、具体的に規則に従って見ていく。

まず、先に述べた「分かち書きが標準」と「一語書き・分かち書きの基準には、文法的基準を採用」が前提とされると、一語書きは特殊な場合のみに生じる現象となり、特に理由のない一語書きは廃止されることになる。一語書きされる場合については、次のような規則が定められている。

R1

名詞、形容詞、動詞語幹、不変化詞は、動詞と非分離複合語を作ることがある。常にこれらは一語で書かれる。

R2

不変化詞、形容詞、名詞は、動詞と様々な分離複合語を作る。これらは、不定詞、現在分詞、過去分詞及び、副文で動詞が後置される場合のみ、一語で書かれる。

一語書きされる場合の条件は、現行の規則と変わっていない。変わっているのは、この規則が当てはまる語彙である。これまでは、R2で述べられている場合には一語書きされていたが、新しい規則によると常に分かち書きされるものには、次のようなものが挙げられる。

副詞 (aneinander usw.) + 動詞

aneinander grenzen, auseinander gehen / laufen / setzen, beieinander sein, durcheinander bringen / reden

形容詞¹⁰⁾ + 動詞

fern liegen, fest halten, frei sprechen, gut schreiben, leicht fallen, nahe bringen, schwer nehmen

過去分詞 + 動詞

gefangen nehmen / halten, verloren gehen

名詞+動詞

Kopf stehen, Maß halten, Rad fahren

動詞+動詞

kennen lernen, liegen lassen, sitzen bleiben, spazieren gehen

不変化詞+sein

beisammen sein, da sein, los sein, vorbei sein, vorüber sein,
zurück sein

すなわちこれらは、「分離複合語」つまり、分離動詞とは見なされないのである。これらの語彙の多くは、今までは分離動詞と見なされ、一語書きされていたものである。新正書法によって、これらの語彙は、今まで入っていた分離動詞というカテゴリーからはずれることになる。したがって、新正書法によって、分離動詞のカテゴリーは、明らかに狭められることになる。

1.3.例外的に一語書きされるもの

しかしながら、従来通り一語書きされる語彙もある。新しい規則によると、「一語書きは特別な場合に生じる」現象であるから、以下の場合が例外的に一語書きされる場合である。

形容詞+動詞

○第一構成要素が、そのままの形では現れないもの

brachliegen, fehlgehen, fehlschlagen, feilbieten, kundgeben, kundtun,
weismachen

○第一構成要素に程度を表す語を付加したり、比較変化できないもの

bereithalten, bloßstellen, fernsehen, fertigstellen ('vollenden'), fest-
setzen ('bestimmen'), freisprechen ('für nicht schuldig erklären'),
gutschreiben ('anrechnen'), hochrechnen, müßiggehen, schwarzar-

beiten, totschiagen, wahrsagen('prophezeien)

名詞+動詞

○以下のような第一構成要素を持つもの

acht-: achtgeben, achthaben

haus-: haushalten

heim-: heimbringen, heimfahren, heimführen, heimgehen, heimkehren, heimleuchten, heimreisen, heimsuchen, heimzahlen

irre-: irreführen, irreleiten; (außerdem:) irrewerden

preis-: preisgeben

stand-: standhalten

statt-: stattfinden, stattgeben, statthaben

teil-: teilhaben, teilnehmen

wunder-: wundernehmen

以上の語彙は、新正書法のもとでも以前と変わらず、分離動詞と見なされるものである。これらは、依然として分離動詞のカテゴリに入っている。

しかしながら、これらの語がどういう基準で分離動詞として見なされているのかについては、説明はなされていない。特に、名詞を第一構成要素として持つものは、なぜこれらのみが分離動詞の第一構成要素として見なされるのかは、不明である。「一語書き・分かち書きの基準には、文法的基準を採用」という原則とは矛盾しているように思われる。

「第一構成要素に程度を表す語を付加したり、比較変化できない」という文法的基準も、ここに含まれる語彙を見ると、これが純粹に文法的基準のみで判断できるものかどうか疑わしい。というのは、単語に意味規定がなされているからである。つまり、gut schreibenと分かち書きしたものと、gutschreibenと一語書きしたものと二種類の語が存在するのは、以前と変わらない。この二つの語を分けるのは、意味の違いである。すなわち、一語書きする gutschreiben は 'anrechnen' という意味でのみ用いられるのである。fernsehen も、第一構成要素であるfernだけを見た場合、比較変化できるように思われるが、これは明らかに「TVを見る」という特定の意味で用いられる語である。ということは、ここには明言されていないが、「比喩的な意味の場合は一語書きする」という以前の

意味的基準による一語書き・分かち書きの区別は、まだ存在していると言えるだろう。

1.4. 新正書法によって認められる分離動詞

新正書法によって、分離動詞として認められるのは、まず現在も分離動詞と見なされている、次のような第一構成要素を持つものである。

ab-, an-, auf-, aus-, bei-, beisammen-, da-, dar-, durch-, ein-,
einher-, empor-, entgegen-, fort-, gegenüber-, her-, hin-, inne-, los-,
mit-, nach-, nieder-, über-, um-, umher-, unter-, vor-, weg-,
weiter-, wider-, wieder-, zu-, zurück-, zusammen-,

dabei-, dafür-, dagegen-, daher-, dahinter-, daneben-, davon-,
davor-, dazu-; daran-, darauf-, darauflos-, darüber-, darunter-,

herab-, heran-, herauf-, heraus-, herbei-, herein-, herüber-, herum-,
herunter-, hervor-; hinab-, hinauf-, hinaus-, hinein-, hinunter-,
hinzu-; voran-, voraus-, vorbei-, vorher-, vorüber-, zuvor-, zuwider-

さらに、1.3.で述べたような、形容詞+動詞、名詞+動詞という構成を取るものが付け加えられる。現行の正書法による分離動詞のカテゴリーに含まれるものと比べると、かなり減っているのは明らかである。

2. これまでの正書法辞典と分離動詞の関わり

これまで述べてきたように、新正書法によって、これまで分離動詞の一タイプと見なされ、一語書きされてきた動詞が分かち書きされることになり、分離動詞のカテゴリーの範囲は大幅に狭められることとなった。なぜ、ある動詞は分離動詞として一語書きされ、ある動詞は分離動詞と見なされず分かち書きされるのかということについて、新正書法では説明されていない。

では次に、過去の正書法辞典では、どのように記述されているかを見てみる。これまでこのような動詞が、正書法によってどのように扱われてきたか、これまで正書法によって、どの程度分離動詞のカテゴリーが影響を受けてきたのを見ることは、分離動詞というカテゴリーがどのように設定されてきたかということを知る上で有益だろう。

2.1. これまでの正書法及び、資料として用いる正書法辞典

現在使われている正書法、すなわち、ドイツ語圏における統一正書法が定められたのは、1901年ベルリンにおける正書法会議においてである。公的には、この後今日まで正書法の改定というは行われていない。もし、現在提案されている新正書法が施行されることになれば、1901年以来初めての公的な正書法改定ということになる。

今回資料として用いたのは、Duden 正書法辞典である。これは、1880年の初版以来、コンスタントに版を重ねて、スタンダードと見なされ、今日まで発行され続けている。現在規範と見なされ、用いられている正書法の規則も、Duden 正書法辞典が作り上げて来たものである。時の流れの中での語彙の変化、用法の変化に対応しつつ、版を重ねているDuden 正書法辞典は、その時代ごとの状況を捉えるものと見なしでもよいだろう。

2.2. 今回用いた Duden 正書法辞典について

Duden正書法辞典は、前述のように、1880年に Konrad Duden によって初版が出版された。その後編集は、Konrad Duden 個人ではなく、Bibliographisches Institut が担うことになる。第二次大戦後には、東西ドイツの分割に従い、Bibliographisches Institut も Mannheim と Leipzig の両方に存在し、それぞれ独自に正書法辞典を出し続けたが、東西ドイツの統一に伴って、1991年の第20版で Mannheim-Duden¹¹⁾ と Leipzig-Duden¹²⁾ も統合された。¹³⁾

残念ながら、日本において、これまでに出版されたすべての Duden 正書法辞典を手に入れるのは不可能だった。Mannheim-Duden については、ほぼ全部の版を手に入れるのは可能だったが、Leipzig-Duden 及び、第二次大戦以前の版については、すべての版を網羅できていないことを、先に断っておく¹⁴⁾。

3.これまでの正書法辞典における見出し語の推移

ここでは、新正書法によると分離動詞ではなくなるもの、また、以前と同じく一語書きされるものが、これまでどのように正書法辞典に記述されてきたかを見してみる。その際注目するのは、いつこの語が見出し語として現れたか、いつ分離動詞としての記述が現れるか、同じ第一構成要素を持つ見出し語がいくつあげられているかである¹⁵⁾。また一語書きの場合に、意味規定があるかどうかにも注目する。便宜上、新正書法におけるのと同じ、第一構成要素の品詞による分類を採用する。

3.1.動詞+動詞¹⁶⁾

○-lernen

記号：×…見出し語なし；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
kennenlernen	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
liebenlernen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	◎	◎
schätzenlernen	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

○spazieren-

記号：×…見出し語なし；△…分かち書きの見出し語有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
spazierenfahren	×	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
spazierenführen	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎
spaziergehen	×	△#	△#	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
spazierenreiten	×	×	×	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

#…ただし、分かち書きの見出し語のところには、「Bでは一語書き」との注記

がある。すなわち、Bayernの正書法規則では一語書きされていたということを表している。

○-bleiben

記号：×…見出し語なし；△…分かち書きの見出し語有り；○…分離動詞としての過去分詞形有り；

◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；④…一語書きの場合の意味規定¹⁷⁾有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991	
bestehenbleiben	×	×	×	×	×	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
hängenbleiben	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
liegenbleiben	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
sitzenbleiben	×	○	◎	◎	◎	◎	◎A	◎A	◎A	◎B	◎B	◎B	◎B	◎C	◎C	◎C	◎D	◎D	◎C
steckenbleiben	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎E	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
stehenbleiben	×	×	×	◎	◎	◎	◎F	◎G	◎G	◎G	◎G	◎H	◎H	◎I	◎I	◎I	◎I	◎I	◎I

④…nicht versetzt werden; nicht geheiratet werden 「進級できない；結婚していない」

⑤…in der Schule nicht versetzt werden; nicht geheiratet werden

「学校で進級できない；結婚していない」

◎…in der Schule nicht versetzt werden; nicht geheiratet werden; nicht verkaufen können

「学校で進級できない；結婚していない；売れない」

①…in der Schule nicht versetzt werden; nicht geheiratet werden; et.nicht verkaufen

「学校で進級できない；結婚していない；売れない」

⑥…nicht weiterkönnen 「先に進めない」

⑦…anhalten 「止まっている」

◎…anhalten, übrigbleiben 「止まっている；残っている」

⑧…nicht weitergehen; übersehen 「先に進まない；見過す」

①…nicht weitergehen; übrigbleiben 「先に進まない；残っている」

○-lassen¹⁸⁾

記号：×…見出し語なし；△…分かち書きの見出し語有り；●…見出し語のみ有り；

○…分離動詞としての過去分詞形有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；

④…一語書きの場合の意味規定有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991	
bestehenlassen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●A	●A	●A
bleibenlassen	×	×	×	×	●	●	○	○	○	○B	○B	○	○	○B	○B	○B	○B	○B	○B
fahrenlassen	×	×	×	×	△	●C	○C	○C	○C	○C	○D	○C	○C	○C	○C	○C	○C	○C	○F
fallenlassen	×	×	×	×	×	×	○F	○F	○F	○G	○H	○I	○I	○I	○J	○J	○J	○J	○J
gehenlassen	×	×	×	×	×	×	○K	○L	○L	○L	○L	○M	○N	○M	○M	○M	○M	○M	○O
hängenlassen	×	×	×	×	×	×	○	○P	○P	○P	○P	○Q	○P	○P	○P	○P	○P	○P	○R
liegenlassen	×	×	×	●	●	●	○S	○S	○S	○S	○S	○T	○T	○T	○T	○T	○T	○T	○T
schießenlassen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○U	○U	○U	○U
seinlassen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○V	○V	○V	○V
steckenlassen	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○W	○W	○W	○W	○W	○W	○W	○W
stehenlassen	×	×	×	○X	○X	○X	○Y	○Y	○Y	○Y	○Y	○Y	○Y	○Y	○Y	○Y	○Y	○Y	○Y

- ④…beihalten 「保持する」
 ⑤…unterlassen 「やめる」
 ⑥…aufgeben 「断念する」
 ⑦…aufgeben, auf et. verzichten 「断念する、諦める」
 ⑧…nicht mehr festhalten, aufgeben 「保持できない、断念する」
 ⑨…nicht mehr unterstützen, Beistand entziehen 「支持できない、援助をやめる」
 ⑩…aufgeben, nicht mehr unterstützen 「断念する、支持できない」
 ⑪…aufgeben, nicht weiter verfolgen [z.B.Absichten, Pläne]
 「断念する、(例：意図、計画を) これ以上追求できない」
 ⑫…aufgeben 「断念する」
 ⑬…er hat seine Absicht fallenlassen.(aufgeben), er hat entsprechende Bemerkungen fallenlassen.(geäußert)
 「彼は自分の計画を諦めた」「かれはふさわしい意見を述べた」
 ⑭…in Ruhe lassen; nachlässig sorglos sein, sich zügellos seinem natürlichen Wesen überlassen
 「放っておく；抑制されず、ありのままにいる」
 ⑮…in Ruhe lassen; nachlässig sorglos sein, keine Rücksicht auf andere nehmen
 「放っておく；再：だらしなくしている、他人に対する気遣いのない」
 ⑯…in Ruhe lassen; sich -: sich vernachlässigen, zwanglos verhalten
 「放っておく；再：だらしなくしている、自由に振る舞う」
 ⑰…in Ruhe lassen; sich -: sich vernachlässigen 「放っておく；再：だらしなくしている」
 ⑱…in Ruhe lassen; sich -: sich nicht beherrschen, sich keine Selbstdisziplin auferlegen
 「放っておく；再：自制しない、自己規制のできない」
 ⑲…vergessen 「忘れる」
 ⑳…verzögern, vergessen 「遅くする、忘れる」
 ㉑…vergessen, umg für: jn.im Stich lassen 「忘れる、(俗) 見捨てる」
 ㉒…nicht beachten 「注意しない」
 ㉓…vergessen, nicht beachten 「忘れる、注意しない」
 ㉔…umg. für: aufgeben 「(俗) 断念する」
 ㉕…umg. für: nicht tun 「(俗) しないでおく」

- ㉞…vergessen, im Stich lassen「忘れる、見捨てる」
- ㉟…nicht anrühren「ふれないでおく」
- ㊀…nicht anrühren, vergessen「ふれないでおく、忘れる」

3.1.1. 考察

一語書きの見出し語は、20世紀初頭には現れている。注目すべきは、spazierengehenの例である。これは、1908には分かち書きで現れていたものが、1922では一語書きの見出し語として現れている。つまり、spazierengehenは、この頃に、正書法によって分離動詞のカテゴリーに入れられる動詞となったのである。ただし、1908と1911に「B¹⁹⁾ (註: Bayern) では一語書き」という註があるので、突然、正書法によって一語書きが強制されたというわけではない。初めは一地方のみの用例だったものが、おそらく一般的になった結果、正書法によって一語書きが認められたと考えるのが妥当だろう。

bleibenを基礎動詞に持つものでは、決まった語しか意味規定がないのに対して、lassenを基礎動詞に持つものでは、ほぼすべての語に意味規定があるが目立っている。これは、Mannheim-DudenにもLeipzig-Dudenにも共通して言えることである。

また、lernen、lassenを基礎動詞に持つもの、spazierenを第一構成要素に持つものから見て取れるように、Leipzig-Dudenの方が見出し語の数を増やすのに消極的である。

3.2. 過去分詞＋動詞

○bekannt-

記号：×…見出し語なし；△…分かち書きの見出し語有り；○…分離動詞としての過去分詞形有り；

◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；④…一語書きの場合の意味規定有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
bekanntgeben	×	×	×	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
bekanntmachen	×	④	④	④	④	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
bekanntwerden	×	×	×	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○

- ㊸…veröffentlichen 「公表する」
- ㊹…veröffentlichen, eröffnen 「公表する、知らせる」
- ㊺…veröffentlichen, öffentlich mitteilen 「公表する、公に知らせる」
- ㊻…veröffentlicht, eröffnet werden 「公表される」
- ㊼…veröffentlicht werden 「公表される」
- ㊽…veröffentlicht werden, in die Öffentlichkeit dringen 「公表される、知れ渡る」

○gefangen-

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
gefangenhalten	×	×	×	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
gefangennehmen	×	×	×	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
gefangensetzen	×	×	×	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

○verlorengehen

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；○…分離動詞としての過去分詞形有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
verlorengehen	×	×	×	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○

3.2.1. 考察

ここで注目すべきは、一語書きの見出し語が現れるのが同じく20世紀初頭であることと、bekanntmachenが1908にすでに意味規定されていることである。Dudenによる正書法規則に、「一語書き・分かち書き」の項目が初めて設けられたのは1915であるとされているが²⁰⁾、それよりも早い時期にこのような記述が見られるからである。すでにこの時期に、意味規定した上での一語書きが、規則化される前の段階で現れていることが分かる。

Leipzig-Dudenでは、L1955以来、一語書きの見出し語として bekanntwerdenが現れない。一語書き、意味規定を続ける Mannheim-Dudenと対照的である。

1991のMannheim-Duden、Leipzig-Dudenの統合後の版では、一語書き及び意味規定するMannheim-Dudenの記述が採用されている。これ以外には、見出し語の数の増減に関しての、Mannheim-DudenとLeipzig-Dudenとの違いはない。

また、Mannheim-Dudenでは、分離動詞の過去分詞形のみを記載する場合が多く見られる。特徴的な過去分詞形を示すことで、この動詞が分離動詞であることを示しているのだと思われる。

3.3.名詞+動詞

3.3.1.新正書法においても一語書きされるもの

○acht-

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；◇…分離動詞としての定形有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991	
achtgeben	●	◇	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
achthaben	●	◇	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

○haushalten

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；○…分離動詞としての過去分詞形有り；◆…分離動詞としての定形、過去分詞有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991	
haushalten	●	○	◆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

○heim-

記号：×…見出し語なし；△…分かち書きの見出し語有り；●…見出し語のみ有り；

○…分離動詞としての過去分詞形有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；

Ⓐ ……一語書きの場合の意味規定有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
heimbegeben	×	×	×	×	×	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
heimbeleiten	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○
heimbringen	×	×	×	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
heimfahren	×	×	×	×	×	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
heimführen	×	×	×	●	●Ⓐ	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
heimgeben	×	×	×	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
heimgehen	●	●	●	●	●	●	◎	◎	◎	×	×	○	○	○	○	○	○	○
heimgeigen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	●	●
heimholen	×	×	×	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
heimkehren	×	×	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
heimleuchten	●	●	●	●	●Ⓑ	●	◎	◎	◎	◎	◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎
heimreisen	×	×	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎	×	×	○	○	○	○	○
heimsuchen	×	×	×	●	●Ⓒ	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○Ⓓ	○Ⓓ	○Ⓓ	○Ⓓ	○Ⓓ
heimwollen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	○	○	○
heimzahlen	×	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○

Ⓐ…heiraten「結婚する」

Ⓑ…auch: tadeln, scharf zurückweisen「非難する、厳しくはねつける」

Ⓒ…dem haben sie tüchtig heimgeleuchtet. (derb abgefertigt)

「彼らは、彼をつっけんどんに追い返した」

Ⓓ…strafen; selten: besuchen「罰する、(稀)訪問する」

Ⓔ…er wurde von Unglück und Krankheit schwer heimgesucht.

「彼は、不幸と病気にひどく悩まされた」

○irre-

記号：×…見出し語なし；△…分ち書きの見出し語有り；●…見出し語のみ有り；◇…分離動詞としての定形有り；

○…分離動詞としての過去分詞形有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991	
irreführen	×	●	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
irregehen	△	●	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
irreleiten	×	●	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
irremachen	×	×	×	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
irrereden	×	×	×	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
irresein	△	●	△	●	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

○preisgeben, standhalten

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；◆…分離動詞としての定形、過去分詞有り；

◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991	
preisgeben	●	◆	◆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
standhalten	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

○statt-

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；◇…分離動詞としての定形有り；

○…分離動詞としての過去分詞形有り；◆…分離動詞としての定形、過去分詞有り；

◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991	
stattfinden	●	◇	◆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
stattgeben	×	◇	◆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
statthaben	●	◇	◆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

○teil-

記号：×…見出し語なし；◇…分離動詞としての定形有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1967	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
teilhaben	◇	◇	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
teilnehmen	◇	◇	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

○wundernehmen

記号：×…見出し語なし；△…分かち書きの見出し語有り；◇…分離動詞としての定形有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1967	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
wundernehmen	×	◇	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

3.3.1.1. 考察

これらの、新正書法においても現行と変わらず不定詞を一語書きする語は、irre- と wunder- の場合を除いて、Duden 正書法辞典初版の1880 以来ずっと、一語書きの見出し語として掲載されているものである。これらの語が一語書きする語として残される理由に、すでに分離動詞として定着していたからという理由を挙げられるように思われるが、irre- と wunder- の場合は後に出てきたものであり、これは当てはまらない。また、第一構成要素と結びつく動詞の数が少なく、新しく作られる語の数が少ないという理由も、heim- の場合を考えると当てはまらない。

heim- の場合では、Leipzig-Duden の方が、見出し語の数を増やすことと一語書きの際に意味規定することに消極的なのが見取れる。ほぼ同じ時期の L1987 と M1986 では、M1986 の方が2つ見出し語が多く、意味規定のある語も2つ多い。あるいは、heimgehen を Leipzig-Duden は L1969 以来見出し語として載せていない一方で、Mannheim-Duden は載せ続けているということからすると、Leipzig-Duden の方が見出し語を削るのに積極的と言えるかもしれない。

1908 には、irresein は、他の irre- を第一構成要素に持つものと同じく、一語書きの見出し語として現れている。しかし「Ö、B²¹⁾ 1 では irre sein」という注がついており、Österreich 及び Bayern の正書法規則では分かち書きされていたことを示している。一語書きとしているのは、「印刷業者のための正書法²²⁾」である。1922 には、irre sein, werden は Ö のみであり、「P と B にはこの組み合わせはない」という注がある²³⁾。これは、非常に狭い範囲でしか通用していなかった一語書きが、一般的になることがなかったということだろう。ちなみに、新正書法においても、irre sein は一語書きされない。

しかしながら、heim- の場合に見出し語の増減があるとはいえ、ここに現れる動詞は、用法が安定していると言える。次節に現れるような、公用正書法規則によって書き方に差があるようなものは含まれていない。

3.3.2. 新正書法によって分かち書きされるもの²⁴⁾

記号：×…見出し語なし；△…分かち書きの見出し語有り；●…見出し語のみ有り；◇…分離動詞としての定形有り；

○…分離動詞としての過去分詞形有り；◆…分離動詞としての定形、過去分詞有り；

◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；Ⓐ…一語書きの場合の意味規定有り；

Ⓓ…特別の語形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991	
kegelschieben	×	×	×	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
kopfstehen	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
maschineschreiben	×	×	×	×	◎	◎	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
maßhalten	×	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
radfahren	×	△◆	△◆	△◎	△◎	△◎	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆

◇…ich schiebe Kegel; ich habe Kegel geschoben; um Kegel zu schieben

◆…du schreibst Maschine; maschinesgeschrieben; maschinezuschreiben

◆…ich schreibe Maschine; weil er maschineschreibt; ich habe maschinesgeschrieben; maschinezuschreiben

◆…ich fahre Rad; ich bin radgefahren; radzufahren

3.3.2.1. 考察

ここに属する動詞には、同じ第一構成要素が、異なる基礎動詞と結びついて数を増やしていくというタイプのものは含まれない。どちらかという、一語で何か特定の事柄を表す動詞である。maschineschreibenやkegelschiebenなどに見られるように、比較的新しい事柄を表し、最近になって現れた動詞が含まれている。

これらの特徴は、表記の揺れにあるといってもよい。短期間の間に、定形の表記の仕方が変わる maschineschreiben や radfahren などは、その典型である。

特に radfahren は、用法の差が甚だしい。1908に見出し語として現れて以来、現在のような用法に落ち着くのはL1955である。以下に、表記の移り変わりを示す。

- 1908 radfahren; radgefahren (Bのみ) ; ÖではRad fahrenのみ²⁵⁾
1922 radfahren; ich fahre rad; radgefahren; radzufahren ; Pにはこの語なし ; Öでは、Rad fahren; ich fahre Rad²⁶⁾
1934 radfahren; ich fahre rad; radgefahren; radzufahren ; Öでは、Rad fahren; ich fahre Rad²⁷⁾
L1947 radfahren; ich fahre rad; radgefahren; radzufahren ; ÖR: Rad fahren; ich fahre Rad usw. ; PRとBRには見出し語なし²⁸⁾
L1955 radfahren; ich fahre Rad; ich bin radgefahren; radzufahren

初期には、一般的な分離動詞と同じく定形の場合に、第一構成要素である rad が小文字書きされる例も見られる。しかし、L1947 の記述から推測されるように、この用法は、いずれかの公用正書法規則に記載されていると言うよりも、Duden が推奨する書き方かもしれない。しかしながら、1908 には Bayern の正書法規則が一語書きの見出し語を載せているということは、このような書き方が見受けられたということも考えられる。L1955以降は、Mannheim-Duden も Leipzig-Duden も、定形で分離した第一構成要素を大文字書きするのは変わっていない。この用法がどのような経緯をたどって現れたかは、ここからは不明である。

maschineschreiben は、初めて見出し語として現れるのは、1934 である。これも、現在の用法に落ち着くまで異同があるので、次に示す。

1934 maschineschreiben; ich schreibe maschine; maschinegeschrieben;
maschinezuschreiben

1947 同上

L1955 maschineschreiben; ich schreibe Maschine; maschinegeschrieben;
maschinezuschreiben

1934に見出し語として現れて以来、一般的な分離動詞と同様、定形で分離した第一構成要素 maschine は小文字書きされていたが、この語の場合も L1955以降、現在と同じく大文字書きするとされている。

3.4.形容詞+動詞

形容詞+動詞については、第一構成要素毎の見出し語の数と、そのうちの意味規定のある語の数の表をあげる。見出し語毎の詳細な表は、附録参照。

数字は見出し語の数。括弧内は、そのうち意味規定されている語の数。

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
fern	×	1	2	4	5	8	4	8	8	8	8	8	9	9	8	9	9	9
fest	1	3	3	11	11	13(2)	12(10)	13(1)	13(1)	13(12)	14(12)	11(7)	13(10)	14(10)	26(13)	29(15)	29(15)	29(15)
frei	1	7	7(1)	7(5)	10(8)	10(9)	12(12)	12(12)	12(12)	12(12)	12(12)	11(10)	11(10)	11(10)	13(12)	16(15)	17(16)	17(16)
gleich	×	4(1)	4(1)	7(7)	8(7)	8(7)	9(9)	8(8)	8(8)	8(8)	8(8)	8(8)	9(9)	10(10)	10(10)	10(10)	10(10)	10(10)
gut	3	5	5	7(7)	7(7)	8(8)	7(7)	8(8)	8(8)	8(8)	7(7)	8(8)	8(8)	9(9)	9(9)	9(9)	9(9)	10(9)
leicht	×	×	×	×	×	1	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)	3(3)	3(3)	4(4)	4(4)	4(4)
nahe	×	×	×	6(6)	6(6)	6(6)	7(7)	7(7)	7(7)	7(7)	7(7)	7(7)	7(7)	7(7)	7(7)	7(7)	7(7)	7(7)
offen	×	1(1)	1(1)	3(3)	4(2)	4(2)	4(4)	4(4)	4(4)	4(4)	4(4)	5(5)	5(5)	5(5)	5(5)	5(5)	5(5)	5(5)
richtig	×	×	×	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)	3(3)	3(3)	3(3)	3(3)	3(3)	3(3)
sauber	×	×	×	×	1	1	1	1	1	2	2	1	2	2	2	2	2	2
schwer	×	×	×	2(2)	2(2)	3(2)	3(3)	3(3)	3(3)	3(3)	3(3)	3(3)	3(3)	5(4)	5(4)	5(4)	5(4)	5(4)
tot	×	3	3	11	13	13	13	11(1)	11(1)	12(1)	11(1)	13	14(1)	14(6)	15(7)	15(7)	15(7)	16(7)

3.4.1. 考察

一番見出し語の増加が急激であるということが、形容詞+動詞に属するものの特徴である。特に *fest* を第一構成要素に持つ動詞は、20世紀後半の50年弱の間に3倍近く見出し語が増えている。L1987では14しか見出し語を載せていないのに対して、同じ時期のM1986では29もの見出し語を載せていることから、ここでも Mannheim-Dudenの方が、新しい語を載せるのに積極的なことが見て取れる。ほぼ同じ時期のL1987とM1986で比較すると、*nahe* を第一構成要素として持つもの以外はすべて、M1986の方が見出し語の数が多い。

また、すべての語に意味規定がなされているとは言えないまでも、かなり高い割合で、一語書きする際の意味が記述されているのも、他の品詞を第一構成要素に持つ分離動詞には余り見られない、形容詞+動詞に属するものの特徴である。

1908という早い時期に意味規定の記述があるのも、注目すべき点である。意味規定がある語は *offenstehen* であり、一語書きと分かち書きの見出し語を並記した上で、「前者は *freistehen*, *gestattet sein* (許されている) という意味」との注記がある。明らかに「新しい概念を表す場合は一語書き」が意識されている例である。前述のように、この時点ではまだ、「新しい概念を表す場合は一語書き」というのは規則化されていない²⁹⁾。同じく1908に意味規定のある *gleichmachen* と、先に挙げた *bekanntmachen* の場合は、分かち書きの見出し語との対比がないが、この場合は分かち書きの語と並記しているために、一語書きと特定の意味が関連していることがはっきりしている。

4. 正書法と分離動詞の関わり

以上のことから見て取れるのは、今回調べた、新正書法の導入によって分離動詞のカテゴリーからはずされ、分かち書きされるようになる動詞は、Duden 正書法辞典が出版されて以来の約100年の間に、徐々に正書法に認められ、分離動詞として見出し語に加えられてきたということである。特に、例えば *lassen*、*bleiben* のような基礎動詞に、様々な動詞の不定詞の第一構成要素がついて語彙を増やしていくタイプのものや、形容詞の第一構成要素の多くのように、第一構成要素に比較的自由に基礎動詞が結びついて、語彙を増やしていくタイプのもの

にそういうものが多い。すなわち、かなり生産性が高いものである。

一方、名詞+動詞の構成を持つもので、radfahren、kegelschieben、maschineschreibenのように、比較的最近に現れ、特定の第一構成要素と基礎動詞が結びついて新しい事柄を表す語も、新正書法導入により分離動詞のカテゴリーからはずれるものである。また、これらは分離動詞としては不完全な定形、過去分詞形を持つという事情も、考慮に入れるべきだろう。規則の改定によって変則的な語形を排除する方が、変則的な分離動詞として扱うよりも、合理的と見なすことができる。

新正書法によっても一語書きのまま残る動詞としては、まずacht、statt、teilのような、わずかな基礎動詞としか結びつかず、同じ第一構成要素を持つ見出し語が大幅に増えたりしないような動詞がある。ここには、preisgeben、standhaltenのように、ただ一つの基礎動詞としか結びつかないものも含まれる。

しかしながら、必ずしもこのように、新正書法によって分離動詞のカテゴリーからはずれるものと残るものを明確に分けられるわけではない。

まず、名詞+動詞の構成を持ち、分離動詞として残るものには、heim、irreという第一構成要素を持つものが含まれているということが挙げられる。つまりこれらは、形容詞+動詞の構成を持つ動詞と同じく、様々な基礎動詞と結びついて語彙を増やしていくタイプである。特に、heimを第一構成要素に持つ動詞にはその傾向が強い。3.3.1.であげた表が示すように、heimgebenのように早々と消える語彙もあれば、Leipzig-DudenではL1969以降姿を消すheimgehen、20世紀後半にようやく現れるheimgeigen、heimreisen、heimwollenなどもあり、他の名詞+動詞の構成を持ち、分離動詞として残るものに比べると、語彙の変動が激しい。

また、今回の調査だけでは不十分であるが、形容詞+動詞という構成を持つ動詞は、他の組み合わせのものとは比べると意味規定のあるものが非常に多いが、これらのうち、「程度を表す語を付加したり、比較変化できない」という条件が当てはまって分離動詞として残るものがどれだけ含まれるかは、さらなる検討を要するだろう。新正書法は一語書き・分かち書きを区別するのに、文法的基準を採用しているように見えるが、実際には1.3.であげたような、特定の意味で用いられる動詞が一語書きされるものとして残され、「新たな概念を表す場合は一語書き」という従来の原則も残しているように思われるからである。

結局、新正書法が何をもって一語書きのまま残すか、分かち書きするか決定しているかについては、はっきりしないままである。

ところが、捉え方を変えて、正書法がかなり恣意的で人為的な規則であるとする、この状況はまた違った風に見える。つまり、従来の正書法、「新しい概念を表す場合は一語書き」に基づくものは、意味規定があれば（ない場合も多いのだが）、積極的に分離動詞のカテゴリーに含まれる語彙を増やすことを許す規則であると言えよう³⁰⁾。このことは、これまでにあげた表及び、附録の形容詞＋動詞という構成を持つ見出し語の表で、ここ100年あまりの間に、どれほど多くの語が分離動詞として新たに見出し語に現れてきたかが示している。この傾向はMannheim-Dudenでより強く見られることは、これまで述べてきたとおりである。

それに対して新正書法は、分離動詞のカテゴリーをかなりの範囲で引き縮めるように作られたと言える。つまり、膨大に広がり、境界が曖昧になってしまったものに、もう一度新しく明確な境界を与えようという試みと理解することができる。それは特に、radfahrenに代表されるような、不規則な語形を持つものを分離動詞のカテゴリーから出し、Auto fahrenのような名詞と動詞との慣用的用法へ組み入れることで、分離動詞というカテゴリーを規定する上での基準の複雑さを排除しようとしたところに見られる。

確かにこのように見ると、分離動詞のカテゴリーの範囲は、正書法にかなり依存している。しかしこれもまた視点を変えてみると、分離動詞のカテゴリーはどんどん広がっていくものであり、收拾がつかないために規則が必要になるということかもしれない。今回の正書法改定で分離動詞のカテゴリーはかなり狭まったとはいえ、これが新たな語を取り入れる可能性を持たないものとは言えない。特に、形容詞＋動詞という構成を持つ動詞の一語書き・分かち書きを定める際の、文法的基準を採用してはいるが、いささか境界線が曖昧なところに新たな語が取り込まれる可能性は、十分に見て取れる³¹⁾。このような意味においては、「自らのうちに新しい語を取り込めるといふ点、すなわち閉鎖的でないという点で、分離動詞は開かれたカテゴリーである³²⁾」ということは妥当であり、正書法はある意味で、止めどなく広がろうとする分離動詞のカテゴリーに、枠をはめる役割を果たしているのである。

註

- 1) 執筆時には、まだ施行時期の詳細等は不明である。
- 2) 新正書法で扱われる分野は、以下の通りである。
 - A Laut-Buchstaben-Zuordnung (einschließlich Fremdwörterschreibung)
音と綴りの対応関係 (外来語書記を含む)
 - B Getrennt-und Zusammenschreibung 分ち書き・一語書き
 - C Schreibung mit Bindestrich ハイフンを含む語の書記
 - D Groß- und Kleinschreibung 大文字書き・小文字書き
 - E Zeichensetzung 句読法
 - F Worttrennung am Zeilenende 分綴法
- 3) ここでの新正書法の規則は、次の、改革案としてまとめられて出版された本に依拠している。

Internationale Arbeitskreis für Orthographie: Deutsche Rechtschreibung. Vorschläge zu ihrer Neuregelung. Narr, Tübingen, 1993²

おそらく、近々出版予定のDuden正書法辞典第21版には、これに変更が加えられた後の、決定稿としての新規則が掲載されると思われる。
- 4) 1901年に定められた、公的な正書法規則には、一語書き・分ち書き分野は含まれていない。従って、現行の規則としてDudenを参照することにする。
- 5) Duden; Rechtschreibung der deutschen Sprache. 1991²⁰ S.62
- 6) ここでは、複合動詞を不定詞で書いた場合の、前に来る要素、つまりleichtfallenの例ではleichtを第一構成要素と呼び、後に来る要素-fallen-を第二構成要素、または基礎動詞と呼ぶ。
- 7) 正書法の規則とそれからはみ出す例については、『分離動詞の認定をめぐる諸問題』S. 54-56を参照。

中村 直子：分離動詞の認定をめぐる諸問題 In: 研究報告第8号 1995
- 8) Mentrup: Zwischenbilanz zur Neuregelung der deutschen Rechtschreibung. In: Deutsche Sprache 1992 S.264
- 9) a.a.O.
- 10) ただし、程度を表す語を付加できたり、比較変化できるものに限られる。
- 11) 第二次大戦以降の、MannheimのBibliographisches Institut及び、これによって編集された正書法辞典をこう呼ぶこととする。
- 12) 前者に対して、第二次大戦以降の、LeipzigのBibliographisches Institut及び、これによって編集された正書法辞典をこう呼ぶこととする。
- 13) Konrad Dudenの仕事と、1961年第15版までのMannheim-Dudenのたどってきた道筋については、以下の文献に詳しい。

Grebe, Paul: Geschichte und Leistung des Dudens. In: Wirkendes Wort 1962

- 14) どの版を用いたかについては、文献一覧を参照。
- 15) ただし、動詞+動詞のものに限っては、同じ基礎動詞を持つものがいくつ挙げられているかを調べたものもある。
- 16) 年号は、Duden正書法辞典のそれぞれの版の出版年である。
Mannheim-DudenにはM、Leipzig-DudenにはLを、それぞれ年号の前に付けて表す。これが何版にあたるかなど、詳細は文献一覧参照。
- 17) これは、一語書きすると特定の意味で用いられる場合に、その意味が記述されていることを表す。また、意味的に限定されるような特定の目的語を取り、それが記述されている場合、またそれを含む例文が記述されている場合も、ここに含む。
- 18) lassenを基礎動詞に持つ複合動詞は、過去分詞でgeのつく形とつかない形の両方を取りうる。(例: er hat die Suppe stehenlassen / stehengelassen.) geのつかない形は、一見、非分離動詞の過去分詞のようだが、これは、この動詞が非分離動詞型の過去分詞形を取るというよりも、lassenという動詞の性質にかかわっているように思われる。後には、lassenが他の動詞の不定形と結びつく場合の過去分詞は、geがつかない形の方が一般的になっていく。しかしながら、ここでは、これはlassen固有の問題と捉え、geのつかない過去分詞形を作ることは、特に注意を払わないこととする。
- 19) 1908で、Bという略号が指しているのは、以下の公用正書法規則本である。(vgl. 1908 Vorbemerkungen XXIV)
das bayrische Wörterverzeichnis von Ammon.
- 20) vgl. Deutsche Rechtschreibung S.XIX, Herberg / Baudusch: Getrennt oder Zusammen? S.16, Mentrup S.265, Zabel: Die Neuregelung der deutschen Rechtschreibung. In: Der Sprachdienst 1/95 S.11
これらによると、ここでは、feststellen - fest stellenにおける「新しい概念が生じているかどうかによる一語書き・分かち書きの区別」が見られるという。すなわち、一語書きのfeststellenが、als zweifellos hinstellen「間違いないと認める」という比喩的な意味で用いられる一方で、分かち書きのfest stellenは、etwas so stellen, daß es nicht schwankt「ぐらつかないように据える」という具体的な意味で用いられるのである。
尚、残念ながら、今回この版は手に入らなかった。
- 21) 1908でÖで示されているのは、以下の公用正書法規則本である。(vgl. 1908 a.a.O.)
die österreichische Ausgabe des Regelbuchs von 1904.
Bは註19)を参照。
- 22) vgl. 1908 a.a.O.
- 23) 1922でÖ、P、Bで示されているのは、それぞれ以下の公用正書法規則本である。(vgl. 1922 Vorwort V Anm.1)
Ö: Regeln für die deutsche Rechtschreibung nebst Wörterverzeichnis. Große Ausgabe. Zum Gebrauch für Lehrer und Schüler. Durchgesehene und ergänzte Auflage. Wien. Im kaiserlich-königlichen Schulbücher-Verlage. 1913.

P: Regeln für die deutsche Rechtschreibung nebst Wörterverzeichnis. Herausgegeben im Auftrag des Königlich Preußischen Ministeriums der geistlichen und Unterrichts-Angelegenheiten. Neue Bearbeitung. Berlin, Weidmannsche Buchhandlung. 1914.

B: Regeln für die deutsche Rechtschreibung nebst Wörterverzeichnis. Herausgegeben vom Königlich Bayerischen Staatsministerium des Innern für Kirchen- und Schulangelegenheiten auf Grund Vereinbarung mit den deutschen Bundesregierungen und mit Österreich. Neue Bearbeitung (14. Auflage), München. Verlag von R. Oldenbourg. 1914.

- 24) ここには、分離動詞としては不完全なもの、すなわち分離動詞の統語的・形態的認定基準を完全に満たさない動詞が多く含まれる。分離動詞の認定基準とそれを不完全にしか満たさない動詞について、詳しくは『分離動詞の認定をめぐる諸問題』を参照。
- 25) B、Öについては、註19)、22)参照。
- 26) P、Öについては、註23)参照。
- 27) 1934でÖで示されているのは、以下の公用正書法規則本である。(vgl.1934 Vorwort S. 3*)

Regeln für die deutsche Rechtschreibung nebst Wörterverzeichnis. Große Ausgabe. Zum Gebrauch für Lehrer und Schüler. Wien. 1930.

- 28) L1947で、ÖR、PR、BRで表されているのは、それぞれ次の公用正書法規則本である。

ÖR: Regeln für die deutsche Rechtschreibung nebst Wörterverzeichnis. Große Ausgabe. Zum Gebrauch für Lehrer und Schüler. Neubearbeitete Auflage, Wien, 1935

PR: Regeln für die deutsche Rechtschreibung nebst Wörterverzeichnis. Herausgegeben im Auftrag des Reichs- und Preußischen Ministerium für Wissenschaft, Erziehung und Volksbildung. Berlin, 1940

BR: Regeln für die deutsche Rechtschreibung nebst Wörterverzeichnis. Herausgegeben vom Bayerischen Staatsministerium für Unterricht und Kultus. 52. Auflage, München, 1940

- 29) 註20)参照。
- 30) 今回は、個々の正書法辞典において規則にどのような変遷があるかには、調査が至っていない。現在の正書法の規則が、「新しい概念を表す場合は一語書き」という原則に立ち、規則を整備して分離動詞を規定していくことについては、この先の課題としたい。
- 31) もちろん、実際にこの文法的基準によって、どれだけの語が分離動詞のカテゴリーに入れられるかは、新正書法による新しい正書法辞典を待たねばならない。
- 32) 『分離動詞の認定をめぐる諸問題』S.62

文献一覽

- Grebe, Paul: Geschichte und Leistung des Dudens. In: Wirkendes Wort 1962 S.65-73
- Herberg, Dieter / Baudusch, Renate: Getrennt oder Zusammen? Ratgeber zu einem schwierigen Rechtschreibkapitel. VEB Bibliographisches Institut, Leipzig, 1989
- Internationale Arbeitskreis für Orthographie: Deutsche Rechtschreibung. Vorschläge zu ihrer Neuregelung. Narr, Tübingen, 1993²
- Mentrup, Wolfgang: Zwischenbilanz zur Neuregelung der deutschen Rechtschreibung. In: Deutsche Sprache 1992 S.255-274
- Zabel, Hermann: Die Neuregelung der deutschen Rechtschreibung. In: Der Sprachdienst 1/95 S.1-18

中村直子：分離動詞の認定をめぐる諸問題 In: 京都大学大学院独文研究室「研究報告」第8号 1995 S.39-67

《Duden正書法辞典》

- Regeln und Wörterverzeichnis für die deutsche Rechtschreibung zum Gebrauch in den preußischen Schulen. Weidmannsche Buchhandlung, Berlin, 1880 (Nachdruck)
- 1880 : Vollständiges Orthographisches Wörterbuch der deutschen Sprache. Nach den neuen preußischen und bayerischen Regeln. Verlag des Bibliographischen Instituts, Leipzig, 1880 (Nachdruck)
- 1908 : Orthographisches Wörterbuch der deutschen Sprache. Bibliographisches Institut, Leipzig und Wien, 1908⁸
- 1911 : Orthographisches Wörterbuch der deutschen Sprache. Bibliographisches Institut, Leipzig und Wien, 1911⁸
- 1922 : Duden, Rechtschreibung der deutschen Sprache und Fremdwörter. Bibliographisches Institut, Leipzig, 1922⁹

- 1934 : Der große Duden; Rechtschreibung der deutschen Sprache und Fremdwörter. Bibliographisches Institut, Leipzig, 1934 ¹¹
- Der große Duden; Rechtschreibung der deutschen Sprache und Fremdwörter. Bibliographisches Institut, Leipzig, 1937 ¹¹

〈Leipzig-Duden〉

- L1947 : Duden; Rechtschreibung der deutschen Sprache und Fremdwörter. Duden-Schriftleitung des Bibliographischen Instituts, Leipzig, 1947 ¹³
- L1955 : Duden; Rechtschreibung mit Berücksichtigung der häufigsten Fremdwörter. VEB Bibliographisches Institut, Leipzig, 1955
- L1957 : Der Große Duden; Wörterbuch und Leitfaden der deutschen Rechtschreibung. VEB Bibliographisches Institut, Leipzig, 1957 ¹⁵
- L1963 : Der Große Duden; Wörterbuch und Leitfaden der deutschen Rechtschreibung. VEB Bibliographisches Institut, Leipzig, 1963 ¹⁵
- L1969 : Der Große Duden; Wörterbuch und Leitfaden der deutschen Rechtschreibung. VEB Bibliographisches Institut, Leipzig, 1969 ¹⁶
- L1987 : Der Große Duden; Wörterbuch und Leitfaden der deutschen Rechtschreibung. VEB Bibliographisches Institut, Leipzig, 1987 ¹⁸

〈Mannheim-Duden〉

- M1956 : Duden; Rechtschreibung der deutschen Sprache und Fremdwörter. Bibliographisches Institut, Mannheim, 1956 ¹⁴
- M1961 : Duden; Rechtschreibung der deutschen Sprache und Fremdwörter. Bibliographisches Institut, Mannheim, 1961 ¹⁵
- M1967 : Duden; Rechtschreibung der deutschen Sprache und Fremdwörter. Bibliographisches Institut, Mannheim/Wien/Zürich, 1967 ¹⁶
- M1973 : Duden; Rechtschreibung der deutschen Sprache und Fremdwörter. Bibliographisches Institut, Mannheim/Wien/Zürich, 1973 ¹⁷
- M1980 : Duden; Rechtschreibung der deutschen Sprache und Fremdwörter.

Bibliographisches Institut, Mannheim/Wien/Zürich, 1980¹⁸
M1986 : Duden; Rechtschreibung der deutschen Sprache und Fremdwörter.
Bibliographische Institut, Mannheim/Wien/Zürich, 1986¹⁹

1991 : Duden; Rechtschreibung der deutschen Sprache. Bibliographisches Institut, Mannheim/Leipzig/Wien/Zürich, 1991²⁰

附録

○fern-

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；

◇…特別の語形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
fernbeben	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	◎	×	×
fernbleiben	×	×	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
fernhalten	×	×	×	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
fernkopieren	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	◎
fernlenken	×	×	×	×	●	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
fernliegen	×	×	×	●	●	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ferschreiben	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	◎	×	×	×	×
fernsehen	×	×	×	×	×	◎	◎	◇	◇	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎
fernsprechen	×	×	×	×	×	◎	×	◇	◇	◇	◇	◎	×	×	×	×	×	×
fernstehen	×	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
fernsteuern	×	×	×	×	×	◎	×	◇	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ferntrauen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◇

◇…不定詞のみ使用

◇…不定詞と過去分詞のみ使用

○fest-

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；◇…分離動詞としての定形有り；

○…分離動詞としての過去分詞形有り；◆…分離動詞としての定形、過去分詞有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；①…一語書きの場合の意味規定有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
festbacken	×	×	×	●	●	◎	◎①	◎①	◎①	◎①	◎①	◎②	◎②	◎②	◎②	◎②	◎②	◎②
festbeißen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎

festbinden	x x x ● ●	⊙ x ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙
festbleiben	x x x x x	x x x x x x	x x x ⊙ ⊙ ⊙ ⊙
festfahren	x x x x x	x x x x x x	x x x ⊙ ● ● ●
festfressen	x x x x x	x x x x x x	x x x x ⊙ ⊙ ⊙
festhaken	x x x x x	x x x x x x	x x x ⊙ ● ● ●
festhalten	x x x ● ●	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ● ● ●
festheften	x x x x x	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙	x x ⊙ ⊙ ● ● ●
festkeilen	x x x x x	x ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙	x x x x x x x
festklammern	x x x x x	x x x x x x	x x x ⊙ ● ● ●
festklemmen	x x x x x	⊙ x x x x x	x x x x x x x
festkleben	x x x ● ●	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ● ● ●
festklopfen	x x x x x	x x x x x x	x x x x x x ⊙
festknoten	x x x x x	x x x x x x	x x x x ● ● ●
festlaufen	x x x x x	x x x x x x	x x x x x x ●
festlegen	x ● ● ● ●	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙
festliegen	x x x x x	x x x x x x	x ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ● ⊙ ● ⊙
festmachen	x x x ● ●	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙
festnageln	x ● ● ● ●	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙
festnähen	x x x x x	x x x x x x	x x x ⊙ ● ● ●
festnehmen	x x x ● ●	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙
festrennen	x x x x x	x x x x x x	x x x ⊙ ● ● ●
festsaugen	x x x x x	x x x x x x	x x x ⊙ ● ● ●
festschnallen	x x x x x	x x x x x x	x x x ⊙ ● ● ●
festschreiben	x x x x x	x x x x x x	x x x ⊙ ● ● ●
festsetzen	x x x x x	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ● ⊙ ● ⊙
festsitzen	x x x ● ●	⊙ x x x x x	x ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙
feststehen	● ● ● ● ●	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙
feststellen	x x x ● ●	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙	⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙
festtreten	x x x x x	x x x x x ⊙	x x x ⊙ ● ● ●
festwachsen	x x x x x	x x x x x x	x x x x ● ● ●
festziehen	x x x x x	x x x x x x	x x x ⊙ ● ● ●

- ㉔…kleben 「くっつく」
 ㉕…ankleben 「くっつく」
 ㉖…sich intensiv und ausdauernd mit et.beschäftigen 「～に集中して、ねばり強く取り組む」
 ㉗…anbinden 「結びつける」
 ㉘…nicht nachgeben 「屈服しない」
 ㉙…der Kolben hat sich festgefressen. 「ピストンは堅くくい込んでいた」
 ㉚…sich am Griff festhalten, an seiner Meinung festhalten
 「握りをしっかりつかむ、自分の意見に固執する」
 ㉛…nicht loslassen 「離さない」
 ㉜…ich werde das lose Band festheften. 「私は、ゆるんだベルトをきつく締めるつもりだ」
 ㉝…mit Keil(en) befestigen 「くさびでとめる」
 ㉞…mit Leim befestigen 「のりでとめる」
 ㉟…mit Klebstoff befestigen 「接着剤でとめる」
 ㊱…bestimmen 「決める」
 ㊲…anordnen 「指示する」
 ㊳…auf einer Sandbank festliegen 「(船が) 浅瀬に乗り上げている」
 ㊴…ein Brett festmachen; ein Geschäft festmachen (ein Auftrag abschließen) 「板を固定する；取引を結ぶ」
 ㊵…ein Brett festmachen (umg: befestigen) ; ein Geschäft festmachen (kaufmänn. für abschließen)
 「板を固定する；(商) 取引を結ぶ」
 ㊶…ein Brett festmachen (befestigen); ein Termin festmachen (umg:festlegen)
 「板を固定する；期日を決める」
 ㊷…vereinbaren 「取り決める」
 ㊸…jn auf et.festlegen 「…を～に縛り付ける」
 ㊹…verhaften 「逮捕する」
 ㊺…durch einen Vertrag o.ä. vorläufig festlegen 「協定等によって、一時的に取り決める」
 ㊻…gefangennehmen, bestimmen, anordnen 「捕らえる、決める、指示する」
 ㊼…gefangennehmen 「捕らえる」
 ㊽…bestimmen, anordnen, gefangensetzen 「決める、指示する、監禁する」
 ㊾…nicht mehr weiter können 「これ以上動かない」
 ㊿…nicht weiter kommen, weiter können 「これ以上進めない、動かない」
 ①…nicht weiter kommen 「これ以上進めない」
 ②…sicher, gewiß sein 「確かである」
 ③…Gewißheit verschaffen 「確かめる」
 ④…als zweifellos ermitteln 「間違いなく確かめる」
 ⑤…nachdrücklich aussprechen 「強調して口に出す」

Ofrei-

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；○…分離動詞としての過去分詞形有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；Ⓐ…一語書きの場合の意味規定有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991	
freibekommen	×	×	×	×	×	×	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	●	●	●	●	●	●	●	●
freigeben	×	●	●	●	●	●	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	●	●	●	●	●	●	●	●
freihaben	×	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	●	●	●	●
freihalten	●	●	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	●	●	●	●	●	●	●
freikaufen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	●	●	●
freikommen	×	×	×	×	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
freilassen	×	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
freilaufen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎
freilegen	×	●	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
freimachen	×	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
freipressen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
freischwimmen	×	×	×	×	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
freisetzen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
freispielen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
freisprechen	×	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
freistehen	×	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
freistellen	×	×	×	×	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

- Ⓐ…eine Stunde freibekommen 「1時間の休みをもらう」
- Ⓑ…im eine Stunde freigeben, in freigeben (freilassen) 「～に1時間の休みを与える、～を釈放する」
- ◎…10 tage freihaben 「10日の休みである」
- ◎…Urlaub Ferien haben 「バカンス、休暇である」
- ◎…Urlaub, keinen Diest haben 「バカンスで、仕事がない」
- ◎…ich werde dich freihalten. (für dich bezahlen) 「君におごるよ」
- ◎…für in bezahlen 「～の分の勘定も払う」
- ◎…für in bezahlen; die Ausfahrt freihalten (unbesetzt lassen)
「～の分の勘定も払う、出入口につき駐車禁止」
- ◎…ich werde dich freihalten. (für dich bezahlen); ich werde den Stuhl freihalten.(belegen)
「君におごるよ；席を取っておくよ」
- ◎…ich werde dich freihalten. (für dich bezahlen); ich werde den Stuhl freihalten.(belegen); die Ausfahrt freihalten

(nicht verstellen)

「君におごるよ；席を取っておくよ；出入り口につき駐車禁止」

- Ⓚ…durch ein Lösegeld befreien 「身代金を払って釈放させる」
- ①…von Militär 「除隊になる」
- Ⓜ…loskommen 「自由になる」
- Ⓝ…einen aus der Gefangenschaft, den Fesseln 「囚われの身から、束縛から自由にする」
- Ⓞ…einen Gefangenen 「囚人を自由にする」
- Ⓟ…in die Freiheit entlassen 「解放する」
- Ⓠ…beim Fußballspiel 「(サッカーで) 独走する」
- Ⓡ…entblößen; deckende Schichten entfernen 「露出させる、覆いを取り去る」
- Ⓢ…Briefe freimachen 「手紙に切手を貼る」
- ①…Postw. 「(郵) 切手を貼る」
- ②…Postw.; sich freimachen (Zeit nehmen) 「(郵) 切手を貼る；時間をあける」
- ③…Postw., ein paar Tage freimachen (Urlaub machen), sich freimachen (Zeit nehmen)
「(郵) 切手を貼る；2、3日休暇を取る；時間をあける」
- Ⓣ…durch Erpressung js Freilassung erzwingen 「圧力によって、釈放を強要する」
- Ⓤ…die Schwimmprüfung ablegen 「遊泳試験に合格する」
- ④…aus einer Bindung lösen 「束縛から自由になる」
- ⑤…Sport 「自由演技する」
- ⑥…von Schuld 「無罪の判決を下す」
- ⑦…für nicht schuldig erklären; Handwerk: zum Gesellen erklären
「無罪の判決を下す；(職) 徒弟に職人免許を与える」
- ⑧…gestattet sein 「許されている」
- ⑨…das soll dir freistehen.(gestattet sein) 「それをしてもいいよ」
- ⑩…das soll dir freistehen.(gestattet sein); das Haus hat lange freigestanden.(war unbenutzt)
「それをしてもいいよ；その家は長い間空き家だった」
- ⑪…erlauben 「許可する」
- ⑫…überlassen, erlauben 「任せる、許可する」

○…gleich-

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；◇…分離動詞としての定形有り；○…分離動詞としての過去分詞形有

り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；Ⓐ……語書きの場合の意味規定有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
gleichbleiben	×	◇	◇	◇	◇	◇	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ
gleichkommen	×	●	●	◇	●	●	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	●	○	○	○	○	○	○
gleichmachen	×	●	●	●	●	●	Ⓒ	Ⓒ	Ⓒ	Ⓒ	Ⓒ	●	●	●	●	●	●	●
gleichschalten	×	×	×	×	●	●	Ⓓ	×	×	×	×	●	●	●	●	●	●	●
gleichsehen	×	×	×	●	●	●	Ⓔ	Ⓔ	Ⓔ	Ⓔ	Ⓔ	●	●	●	●	●	●	●
gleichsetzen	×	×	×	×	×	×	Ⓕ	Ⓕ	Ⓕ	Ⓕ	Ⓜ	×	×	●	●	●	●	●

gleichstehen	× × × ●○●○	●○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ●○ ●○ ●○ ●○ ●○ ●○ ●○ ●○
gleichstellen	× × × ●P●P	●P ○P ○P ○P ○P ○P ○P ●P ●P ●P ●P ●P ●P ●P ●R
gleich tun	× ● ● ◇S●S	●S ○S ○S ○S ○S ○S ○S ●S ●S ●S ●S ●S ●S ●S ●T
gleichziehen	× × × × ×	× × × × × × × ●U ●U ●U ●U ●U ●U ●V

- ㉔…unverändert bleiben「不変である」
- ㉕…erreichen「匹敵する」
- ㉖…den Erdboden gleichmachen「地面をならす」
- ㉗…angleichen「合わせる」
- ㉘…angleichen, eben machen「合わせる、等しくする」
- ㉙…einheitlich durchführen; in gleiche Richtung, unter den gleichen Hut bringen
「画一的に行う；同調させる」
- ㉚…einheitlich durchführen「画一的に行う」
- ㉛…ähnlich sein「似ている」
- ㉜…ähneln「似ている」
- ㉝…im Aussehen gleichen「見た目が同じである」
- ㉞…ähnlich sehen「同じように見える」
- ㉟…in eins setzen「同等に扱う」
- ㊱…vergleichbar machen「対比させる」
- ㊲…et.mit einer Sache gleichsetzen「～を…と同等に扱う」
- ㊳…gleich sein「同じである」
- ㊴…gleichmachen「等しくする」
- ㊵…auf die gleiche Stufe stellen, angleichen「同じ位置に置く、合わせる」
- ㊶…auf die gleiche Stufe stellen「同じ位置に置く」
- ㊷…erreichen「匹敵する」
- ㊸…nacheifern「負けまいとする」
- ㊹…techn.: ugs.auch für: in gleiche Weise handeln「(技術)(俗)同じように振る舞う」
- ㊺…(Technik)「(技術)」

○…gut-

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；◇…分離動詞としての定形有り；○…分離動詞としての過去分詞形有り；▽…分利動詞としてのzu不定詞形有り；◆…分離動詞としての定形、過去分詞有り；
 ◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；Ⓐ…一語書きの場合の意味規定有り；
 Ⓓ…特別の語形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991	
gutachten	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◇
gutbringen	×	×	×	×	×	●Ⓐ	×	◎Ⓐ	◎Ⓐ	◎Ⓐ	×	○Ⓐ	○Ⓐ	○Ⓐ	○Ⓐ	○Ⓐ	○Ⓐ	○Ⓐ	○Ⓐ
gutgehen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○B	○B	○B	○B	○B	○B
guthaben	×	×	×	●C	●D	●D	○D	○D	○D	○D	○C	◇D	◇D	◇D	◆D	◆D	◆D	◆D	◆D
gutheißen	●	●	●	◎E	◎E	●E	◎E	◎E	◎E	◎E	◎E	◎E	◎E	◎E	◎E	◎E	◎E	◎E	◎E
gutmachen	●	●	●	●F	●G	●G	◎H	◎I	◎I	◎I	◎J	◎K	◎G	○L	○L	○L	○L	○L	○L
gutsagen	×	○	○	◎M	◎M	◇M	◎M	◎M	◎M	◎M	◎M	◎M	◎M	◎M	◎M	◎M	◎M	◎M	◎M
gutschreiben	×	×	×	◎N	◎N	◇N	◎N	◎N	◎N	◎N	◎N	◎N	◎N	◎N	◎N	◎N	◎N	◎N	◎N
gutsprechen	×	○	○	●O	●O	●P	◎P	◎P	◎P	◎P	◎P	◎Q	◎Q	◎R	◎R	◎R	◎R	◎R	◎R
guttun	●	○	○	◎S	◎T	●T	◎U	◎U	◎U	◎U	◎U	◎U	◎U	◎U	◎U	◎U	◎U	◎U	◎U

- Ⓐ…kaufm.für: gutschreiben 「(商) 貸し方に記入する」
- …sich in einen angenehmen Zustand befinden; ein gutes Ende nehmen
「よい状態のままである；よい結果になる」
- ◎…zu fordern haben 「貸しがある」
- ◇…kaufm.für: zu fordern haben 「(商) 貸しがある」
- ◎…billigen 「同意する」
- ◎…auf gütlichem Wege erledigen 「穏やかな方法で処理する」
- ◎…auf gütlichem Wege erledigen; in Ordnung bringen; erwerben, Vorteil erringen; Pflanzenzucht: veredeln
「穏やかな方法で処理する；整える；入手する、利益を手に入れる；(栽培) (接ぎ木して) 品種改良する」
- ◎…gütlich erledigen; Vorteil erringen, einsparen
「穏やかに処理する；利益を手に入れる、節約する」
- ◎…in Ordnung bringen, ausgleichen; Vorteil erringen, einsparen; bot.: veredeln
「整える、均一化する；利益を手に入れる、節約する；(植) 品種改良する」
- ◎…in Ordnung bringen, ausgleichen; Vorteil erringen, einsparen; umg.für: veredeln
「整える、均一化する；利益を手に入れる、節約する；(俗) 品種改良する」
- ◎…in Ordnung bringen, ausgleichen; Vorteil erringen, einsparen
「整える、均一化する；利益を手に入れる、節約する」
- ◎…auf gütlichem Wege erledigen; in Ordnung bringen; erwerben, Vorteil erringen
「穏やかな方法で処理する；整える；入手する、利益を手に入れる」
- ◎…bürgen 「保証する」

- ㉞…anrechnen 「貸し方に記入する」
- ㉟…bürgen 「保証する」
- ㊱…bürgen, gutsagen 「保証する」
- ㊲…landsch.: gutsagen 「(方) 保証する」
- ㊳…veralt.noch mdal.für: bürgen, gutsagen 「(古びているが、まだ方言で) 保証する」
- ㊴…auch: folgsam sein 「従順である」
- ㊵…wohltun; auch: folgsam sein 「気持ちがよい; 従順である」
- ㊶…wohltun 「気持ちがよい」

◇…nur im Infinitiv und Partizip 「不定詞と現在分詞形のみで」

○…leicht-

記号: ×…見出し語なし; ○…分離動詞としての過去分詞形有り; ◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り; ㉞…一語書きの場合の意味規定有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991	
leichtfallen	×	×	×	×	×	×	◎A	◎A	◎A	◎A	◎A	○B	○B	○B	○B	○B	○B	○B	○B
leichtmachen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○C	○C	○C	○C	○C	○C
leichtnehmen	×	×	×	×	×	◎	◎D	◎D	◎D	◎D	◎D	○E	○E	○E	○E	○E	○E	○E	○E
leichttun	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○F	○F	○F

- ㉞…keine Mühe verursachen 「苦勞がいらぬ」
- ㉟…keine Anstrengung erfordern 「努力を要しない」
- ㊱…wenig Mühe machen 「余り苦勞がない」
- ㊲…auf die leichte Schulter nehmen 「軽く考える」
- ㊳…nicht Mühe darauf verwenden 「苦勞がいらぬ」
- ㊴…ich habe mir oder mich leichtgetan dabei.(es ohne Schwierigkeiten, Hemmungen bewältigt)
「楽に、躊躇なくできた」

○…nahe-

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；○…分離動詞としての過去分詞形有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；ⓐ…一語書きの場合の意味規定有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991	
nahebringen	×	×	×	×	×	×	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ
nahegehen	×	×	×	ⓐ	ⓐ	●	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ
nahekommen	×	×	×	ⓐ	ⓐ	●	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ
nahelegen	×	×	×	ⓐ	ⓐ	●	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ
naheliegen	×	×	×	ⓐ	ⓐ	●	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ
nahestehen	×	×	×	●	●	●	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ
nahetreten	×	×	×	●	●	●	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ	ⓐ

- ⓐ…beibringen 「覚え込ませる」
- ⓐ…Verständnis erwecken 「理解を呼び覚ます」
- ⓐ…erläutern, vertraut machen, Verständnis erwecken 「解説する、馴染ませる、理解を呼び覚ます」
- ⓐ…geistig: ergreifen 「(精神的に) 捉える」
- ⓐ…seelisch: ergreifen, zu Herzen gehen 「(精神的に) 捉える、心に訴える」
- ⓐ…seelisch ergreifen 「精神的に捉える」
- ⓐ…seelisch ergreifen, zu Herzen gehen 「精神的に捉える、心に訴える」
- ⓐ…geistig 「(精神的な意味で)」
- ⓐ…fast greifen 「ほとんど捕らえる」
- ⓐ…fast übereinstimmen 「ほとんど一致する」
- ⓐ…empfehlen 「勧める」
- ⓐ…leicht faßbar, leicht verständlich sein 「容易に理解できる」
- ⓐ…leicht verständlich sein 「容易に理解できる」
- ⓐ…leicht finden, leicht verständlich sein 「容易に理解できる」
- ⓐ…leicht zu finden sein 「容易に分かる」
- ⓐ…befreundet, vertraut sein 「親密である」
- ⓐ…befreundet, vertraut, verbunden sein 「親密である」
- ⓐ…befreundet, vertraut werden 「親密になる」
- ⓐ…befreundet, vertraut werden; österr.nur: jm nahetreten (jm beleidigen)
「親密になる；(奥では) 侮辱する」

○…offen-

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；○…分離動詞としての過去分詞形有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；①…一語書きの場合の意味規定有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
offenbleiben	×	×	×	×	×	×	◎A	◎A	◎A	◎A	◎A	◎B	◎B	◎B	◎B	◎B	◎B	◎B
offenhalten	×	×	×	◎C	◎D	◎D	◎E	◎E	◎E	◎E	◎E	◎D	◎D	◎D	◎D	◎D	◎D	◎D
offenlassen	×	×	×	×	◎	◎	◎G	◎G	◎G	◎G	◎G	◎H	◎I	◎I	◎I	◎I	◎I	◎I
offenlegen	×	×	×	◎J	◎	◎	×	×	×	×	×	◎K	◎K	◎K	◎K	◎K	◎K	◎K
offenstehen	×	●L	●L	◎M	◎N	◎N	◎O	◎O	◎O	◎O	◎O	◎N	◎N	◎N	◎N	◎N	◎N	◎N

- ①…diese Frage muß offenbleiben. 「この問は未解決のままにならざるを得ない」
- ②…das Fenster ist offengeblieben; die Entscheidung ist noch offengeblieben.
「窓は開いたままだった；決定はまだ下っていない」
- ③…geistig; vorbehalten 「(精神的な意味で)：留保しておく」
- ④…vorbehalten; offenstehen lassen 「留保しておく；開いたままにしておく」
- ⑤…jm.eine Stelle offenhalten; die Fenster offenhalten; die Hand offenhalten (freigebig sein)
「場所を空けたままにしておく；窓を開けたままにしておく；気前のよい」
- ⑥…jm.eine Stelle offenhalten; die Fenster offenhalten; die Augen offenhalten (aufpassen)
「場所を空けたままにしておく；窓を開けたままにしておく；注意を払う」
- ⑦…eine Frage offenlassen, die Fenster offenlassen
「問を未解決のままにしておく；窓を開けたままにしておく」
- ⑧…er hat die Frage offengelassen. 「彼はその問を未解決のままにした」
- ⑨…er hat die Frage offengelassen; er hat die Fenster offengelassen.
「彼はその問を未解決のままにした；彼は窓を開けたままにした」
- ⑩…geistig 「(精神的な意味で)」
- ⑪…er hat die letzte Geheimnisse offengelegen. 「彼は最後の秘密を公開した」
- ⑫…freistehen, gestattet sein 「許されている」
- ⑬…geistig; freistehen, gestattet sein 「(精神的な意味で)：許されている」
- ⑭…geöffnet sein; freistehen, gestattet sein 「開かれている；許されている」
- ⑮…ein offenstehendes Konto; die Fenster haben offengestanden; er meinte, daß es mir offenstünde, zu gehen.
「未払いの勘定；窓は開いたままだった；彼は、私が勝手に行けると思っていた」
- ⑯…geöffnet sein; freistehen, gestattet sein; noch nicht bezahlt sein
「開かれている；許されている；未払いである」

○…richtig-

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；○…分離動詞としての過去分詞形有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；Ⓐ…一語書きの場合の意味規定有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
richtigliegen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ
richtigmachen	×	×	×	●C	●C	●D	ⓐD	ⓐD	ⓐD	ⓐD	ⓐD	ⓐD	ⓐD	ⓐD	ⓐD	ⓐD	ⓐD	ⓐD
richtigstellen	×	×	×	●E	●E	●F	ⓐE	ⓐE	ⓐE	ⓐE	ⓐE	ⓐE	ⓐE	ⓐE	ⓐE	ⓐE	ⓐE	ⓐE

Ⓐ…ugs.für: eine [von der Regierung o.a.] gewünschte Überzeugung vertreten
「(俗) (政府などの) 望み通りの信念を主張する」

Ⓑ…ugs.für: das Richtige tun, sich richtig verhalten 「(俗) 正しいことをする、正しく振る舞う」

●…volksm.: begleichen, z.B.eine Rechnung 「(俗) (例えば、勘定を) 清算する」

ⓐ…umg.für: begleichen, z.B.eine Rechnung 「(俗) (例えば、勘定を) 清算する」

ⓑ…berichtigen 「訂正する」

○…sauber-

記号：×…見出し語なし；△…分かち書きの見出し語有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
sauberhalten	×	×	×	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
saubermachen	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

○…schwer-

記号：×…見出し語なし；○…分離動詞としての過去分詞形有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；Ⓐ…一語書きの場合の意味規定有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
schwerfallen	×	×	×	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ
schwerhalten	×	×	×	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ
schwermachen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	Ⓒ	Ⓒ	Ⓒ	Ⓒ	Ⓒ
schwernehmen	×	×	×	×	×	◎	ⓐD	ⓐD	ⓐD	ⓐD	ⓐD	ⓐE	ⓐE	ⓐE	ⓐE	ⓐE	ⓐE	ⓐE
schwertun	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○

- Ⓐ…Mühe verursachen 「苦勞である」
- Ⓑ…schwierig sein 「難しい」
- Ⓒ…Schwierigkeiten machen 「つらくする」
- Ⓓ…zu großes Gewicht beimessen 「重く考える」
- Ⓔ…ernst nehmen 「真面目に取る」

○…tot-

記号：×…見出し語なし；●…見出し語のみ有り；○…分離動詞としての過去分詞形有り；▽…分離動詞としてのzu不定詞有り；◎…分離動詞としての定形、過去分詞形、zu不定詞形有り；Ⓐ…一語書きの場合の意味規定有り；
 ⇩…特別の語形有り

	1880	1908	1911	1922	1934	L1947	L1955	L1957	L1963	L1969	L1987	M1956	M1961	M1967	M1973	M1980	M1986	1991
totarbeiten	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎Ⓐ	◎Ⓐ	◎Ⓐ	◎Ⓐ	◎	◎	◎Ⓑ	◎Ⓑ	◎Ⓑ	◎Ⓑ	◎Ⓑ
totärgern	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○◎	○◎	○◎	○◎
totfahren	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
totfallen	×	×	×	×	◎	◎	◎	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○*
totkriegen	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	▽Ⓓ	▽Ⓓ	▽Ⓓ
totküssen	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	○	○	○Ⓔ	○Ⓔ	×	×	×
totlachen	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎#	○	○	○Ⓕ	○Ⓕ	○Ⓕ	○Ⓕ	○Ⓕ
totlaufen	×	×	×	×	×	×	×	×	◎#	◎#	◎#	×	○	○	○	○	○	○
totmachen	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎#	○	○	○Ⓖ	○Ⓖ	○Ⓖ	○Ⓖ	○Ⓖ
totsagen	×	×	×	◎	◎	◎	◎	●⇩	●⇩	●⇩	●⇩	○	○	○	○	○	○	○
totschießen	×	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
ftotschlagen	×	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
totschweigen	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
totstellen	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
totstürzen	×	×	×	×	◎	◎	◎	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
tottrampeln	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
tottreten	×	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○

*…veratend #…umg.

- Ⓐ…umg. für: sich abarbeiten 「(俗) くたくたになるまで働く」
- Ⓑ…ugs. für: angestrengt arbeiten 「(俗) 一心不乱に働く」
- Ⓒ…ugs. für: sich sehr ärgern 「(俗) 非常に怒っている」

- ①…ugs.: er ist nicht totzubringen.(er hält viel aus) 「(俗) 彼は我慢強い」
- ②…ugs. für: heftig küssen 「(俗) 熱烈にキスする」
- ③…ugs. für: heftig lachen 「(俗) 激しく笑う」
- ④…ugs. für: von sich selbst zu Ende gehen 「(俗) 自然に終わる」
- ⑤…ugs. für: töten 「(俗) 殺す」
- ⑥…er hat seine Zeit totgeschlagen.(ugs. für: nutzlos verbracht) 「(俗) 彼は時を無駄に過ごした」
- ◇…nur im Infinitiv und im 2.Partizip gebräuchlich 「不定詞と過去分詞でのみ使用」

Die Beziehung der Rechtschreibung zu trennbaren Verben

NAKAMURA Naoko

Beim 3. Wiener Gespräch im November 1994 haben sich alle deutschsprachigen Länder über die Neuregelung der deutschen Rechtschreibung verständigt. Nach dem Vorschlag der neuen Rechtschreibregeln beeinflusst die Reform im Bereich „der Getrennt- und Zusammenschreibung“ das Erkennen trennbarer Verben sehr.

Die zwei wichtigen neuen Grundsätze sind hierbei folgende:

- 1) Getrenntschreiben gilt als Normalfall.
- 2) Die grammatischen Kriterien werden für die Entscheidung Zusammenschreibens verwendet. (Wenn der erste Bestandteil sich erweitern oder steigern läßt, schreibt man das Wort getrennt.)

Weil der erste Fall keine grundlose Zusammenschreibung erlaubt und der zweite die Entscheidung viel einfacher macht, schließt die Kategorie der trennbaren Verben den folgenden Wortschatz aus:

- Adverb+Verb auseinander setzen usw.
- Adjektiv+Verb leicht fallen, schwer nehmen usw.
- Partizip+Verb verloren gehen usw.
- Substantiv+Verb Kopf stehen, Rad fahren usw.
- Verb+Verb kennen lernen usw.
- Partikel+Verb da sein usw.

Aber man schreibt nach wie vor die Verben zusammen,

wenn der erste Bestandteil in dieser Form nicht selbständig vorkommt.

brachliegen usw.

wenn der erste Bestandteil nicht erweiterbar oder steigerbar sein kann.

fernsehen, gutschreiben ('anrechnen'), totschiagen usw.
wenn sie die folgenden substantivischen Erstteile haben.

acht-, haus-, heim-, irre-, preis-, stand-, statt-, teil-, wunder-
Das heißt, daß die betreffenden Verben den neuen Regeln nach noch immer
in der Kategorie trennbarer Verben bleiben.

Die Neuregelung der Rechtschreibung beeinflusst, wie oben gesagt, den
Umfang trennbarer Verben. Aber, weil es nicht klar ist, warum die
Verben, die den bestimmten substantivischen ersten Bestandteil haben
oder in der bestimmten übertragenen Bedeutung verwendet werden (vgl.
gutschreiben), als trennbare Verben, anerkannt bleiben, kann man keine
deutliche Grenze zwischen trennbaren Verben und nicht-trennbaren ziehen.
In diesem Aufsatz habe ich in den Duden-Rechtschreibungswörterbüchern
seit der 1. Auflage 1880 danach geforscht, ob die obengenannten Verben
als Stichwort vorkommen, ob sie, wenn sie zusammengeschrieben sind, in
der bestimmten Bedeutung verwendet werden und ob die finite Form, das
Partizip II und der Infinitiv mit „zu“ in den trennbaren Verben eigenen
Formen gezeigt werden.

Das Ergebnis zeigte, daß die Verben, die die neuen Rechtschreibregeln aus
dem Bereich der trennbaren Verben ausschließen, in diesen einhundert
Jahren nach und nach in den verschiedenen Auflagen der Rechtschreibwörter-
bücher als Stichwörter trennbarer Verben vorgekommen sind. Dem ist
hinzuzufügen, daß die meisten Verben zu einem relativ produktiven Typ
gehören. Aber das ist nicht genug, um die Grenze zwischen trennbaren
Verben und nicht-trennbaren aufgrund der neuen Regeln klar definieren zu
können.

Wenn man die Regeln der Rechtschreibung für sehr willkürlich und
künstlich halten kann, kann man verstehen, daß sie wirken, um die
unaufhaltsam sich ausdehnende Zahl der trennbaren Verben einzugrenzen.
Während nach den geltenden Regeln mehr und mehr Wörter in die
Kategorie der trennbaren Verben aufgenommen werden können, beschränken
die neuen die kontinuierliche Erweiterung des Wortschatzes trennbarer
Verben.